

2014年 5 月 富士山 BC スキー記録

(記 鳥切昇治)

期 間:2014年5月24日(土)

場 所:富士山 須走口

メンバー:鳥切 昇治(74才)単独

行動記録

今シーズンの滑り納めは5回目の富士山のバックカントリースキー。今年は残念ながら頂上まで登ることが出来なかった。九合目付近で冷たい風と固雪が体調に影響したのか登る気力が無くなり、そこから滑って下山した。



須走口下山道から5月24日の富士山

5月24日(火) 天候:晴

昨夜実家に泊り、早朝、ふじあざみラインを走り、須走口五合目の駐車場の奥に停める。結構駐車している車が多い。この標高は2000m。朝食を食べ支度をしてスキーを担ぎ、駐車場の脇からブル道を右手の避難小屋の方に登り、砂払五合目に出た。ブル道を登る人達はそのまま左のブル道を登って行った。砂払五合目まで登ると雪が全くない。予想外である。

昨年建て替え中だった砂払五合目の吉野小屋は建て替えられていた。

雪渓末端まで登り、スキーにシールを装着、登り始める。しばらく雪を拾いながら登る。

左手から登って来ているのはブル道を登った人達であろう。



須走口五合目駐車場は車が多い



砂払五合目の山小屋は建て替えられていた

土曜日とあって上部を登っているスキーヤーや登山者が結構多い。

毎度のことながら単調な登りが続く。スキーを担いで登って来た時は風もなく暖かいと思って薄着で登っていたら、風が冷たく体が冷えてしまった。(この時に風邪を引いてしまった)



砂払五合目上部から山中湖



雪渓末端でスキー・シールを装着し登り始める

ウインドブレーカーを着て、手袋も厚手にする。雪面はシール登行に丁度良い状態だったが、硬くなって来たのでクローを装着する。クライミングサポートを下げてクローが効く様にして登る。右の夏道の方へトラバース気味に登る。上の方を見ると、吉田口の方から登って来た人も加わり大勢登って行く。シャリシャリ音を立てて滑って来るスキーヤーや下山して来る登山者がいる。小さな雪片が勢い良く落ちて来る。見ていると慎重に下ってくる。



上部を登って行くスキーヤーが多かった



頂上の山小屋が近くなって来た

頂上の山小屋が見える所まで来た。登山道の鳥居、山小屋が近い。九合目辺りだろうか？



九合目付近から頂上を見上げる

時間的には十分頂上まで行けそうだが、登る気力も無くなって来たので今年はこちらでよしとする。雪面が硬いのでスリップしない様注意してスキーを外す。足場をピッケルで作り、ザックが流されないようピッケルで確保する。シールを外している時、雪片が勢い良く体に当る。登っている人達からのものだ。ここでの長居は危険と判断し、急いで滑走準備をし、スキーを履く。

アイスバーンに近い硬い雪なので転倒しないよう、慎重に滑り始める。思いの外エッジが効くので、スピードをコントロールしながら大斜面を滑る。息が切れるので休みを入れながら滑る。ルートは右の方向に取りながらターンして行く。

下るに従い雪質が変わって来てザラメ雪になり、ターンし易く、緊張感から解放されてご機嫌で滑る。ダケカンバの灌木の先に須走口五合目の駐車場が見えて来た。



須走口五合目の駐車場が見えて来た

ブル道の右側の雪渓が下の方まで伸びている様なので、登って来たルートとは違う此方へ滑ることにする。

両側がダケカンバの灌木帯になった所まで滑って来て、先が見えたので昼食にする。振り返って見ると素晴らしい大斜面を滑って来た。

昼食地から滑って行くと雪渓が狭まり、スプーンカットの雪で滑り難い。男女のボーダー・スキーヤーを追い抜くと、末端に着いた。

スキーをザックに付けてブル道を下る。30分程で五合目駐車場に到着。残念だが今シーズンの滑り納めは不満足な結果に終わった。

スキー、靴、ザックを車に積み込み、着替えてから帰路に着く。



振り返ると素晴らしい大斜面を滑って来た



雪渓末端に到着

コースタイム

実家 4:34—5:05 須走口五合目 5:54—6:40 砂払五合目—6:58 スキー・シール装着 7:15—11:10
クーラー装着 11:15—12:48 九合目付近(滑降開始) 13:18—13:40(昼食) 13:55—14:00 滑降終了点
14:20—14:50 五合目駐車場 15:20—18:05 自宅

以上